

第3回 博多と福岡を結ぶ 国体道路の空間利活用検討会

国体道路(春吉橋)景観検討

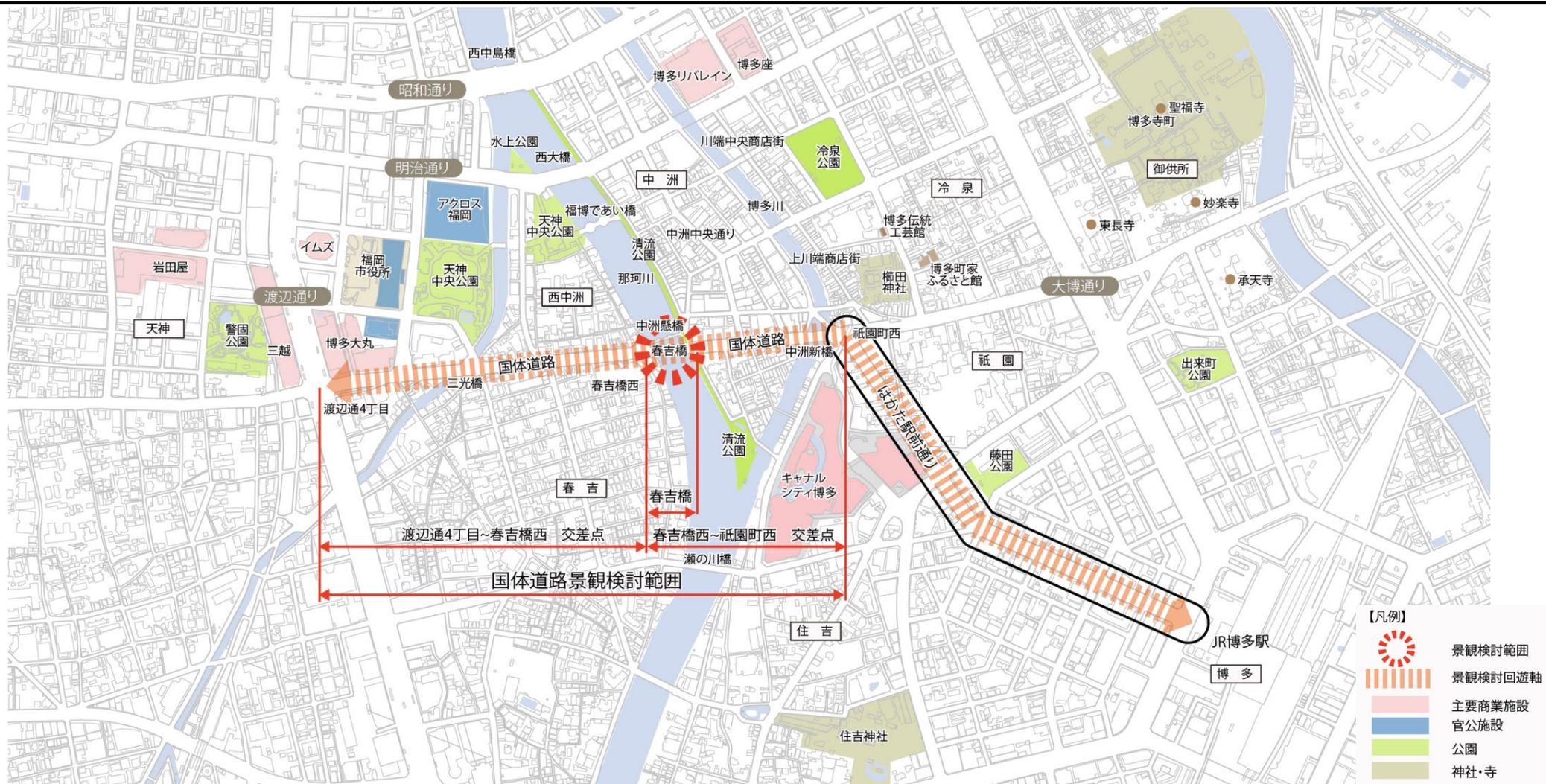
～目次～

- 1 . 景観検討範囲の設定
- 2 . 国体道路の目指すべき景観の方向性
- 3 . 春吉橋の目指すべき景観の方向性(H30.6月景観検討委員会)
- 4 . 春吉橋景観デザインコンセプトの設定
- 5 . 景観検討の留意点の整理
- 6 . 景観構成要素の検討方針
- 7 . 検討の方向性

令和3年 6月

1. 景観検討範囲の設定

- 国道道路の景観検討は、短期対策範囲であるはかた駅前通りの結節点となる「祇園町西交差点～渡辺通4丁目」とし、春吉橋の景観検討を進めるためにも、今後の国道道路の目指すべき景観の方向性を設定。
- 春吉橋賑わい空間は、その中で、国道道路や周辺施設・環境と調和を図りながら、賑わい創出の拠点としていく。



図：国道道路の景観検討範囲

2.国体道路の目指すべき景観の方向性

- 国体道路は、「天神」と「博多」の回遊性を高める軸としてとして、「歩きたくなる」空間づくりが求められている。

■ 目指すべき景観の方向性

国体道路沿道のまちづくりや周辺道路の現況特性を踏まえ、景観の方向性(案)を設定。

天神と博多を結ぶ目抜き通りとして、回遊性の向上、賑わい創出、屋外での憩いの場の創出により、人が楽しみながら、歩きやすく、活動できる場の提供を周辺空間が一体となって転換していくことを目指す。

■ 目指すべき景観の方向性を決定した経緯や理由

国体道路は、周辺地域をつなぐ通りとの接続があり、人の回遊が交わり、水辺の親水空間や福博の文化・歴史などが感じられるまちを背景としながら、「歩きたくなる通り」になる大きなポテンシャルを持っている。

今後、天神と博多を結ぶクロスポイントとして「春吉橋での賑わい空間創出」や周辺地域の「歩きたくなるまちへの取り組み」、「水辺空間とまちが一体となった賑わいづくり」により、人の交流や滞在がより一層深まり、賑わいが感じられる場所となっていく中、国体道路の目指すべき景観の方向性は、人を中心とした「歩いて出かけたくなるまち」、「通りでの交流や滞在ができる魅力のある場所づくり」を天神と博多をつなぐ回遊の軸として連続性と統一感を持った道路空間の再編を行っていく必要がある。

3.春吉橋の目指すべき景観の方向性(H30.6月景観検討委員会)

●春吉橋は、福岡中心市街地を流れる那珂川の間地点、天神と博多を結ぶ国体道路の間地点に位置しており、**「天神」と「博多」の回遊性を高めるクロスポイントとしての核の役割、福博連携のシンボルとしての賑わいの空間づくり**が求められている。

■目指すべき景観の方向性

春吉橋を核とした空間づくりや現況の特性を踏まえ、景観の方向性(案)を設定

福博の回遊拠点として、賑わい空間でのイベントや景観演出とも調和し、周辺環境の中で全体としてまとまりのある橋梁景観を目指す

■目指すべき景観の方向性を決定した経緯や理由

春吉橋は、那珂川に架橋される橋梁として重要な役割を担っており、春吉橋の架替えに伴い、さらに迂回路橋を利用した賑わい空間が創出される。

また、春吉橋は、国体道路における天神と博多を結ぶ中間地点でもあり、那珂川の河川景観と博多の特徴ある都市景観の中に位置する。

春吉橋のめざすべき景観の方向性は、「天神」と「博多」を結ぶ「福博連携」の回遊の核となる**国体道路の沿道空間の一部として、「人が楽しみ、交流や滞在が可能な賑わい空間」の創出と周辺のまち並みや水辺空間との調和を図り**、賑わい空間で開催されるイベントや景観演出を図(主題)として、春吉橋はこれを支える地(背景)として、都心の新たなシンボル、ランドマークを形成する必要がある。

4.春吉橋景観デザインコンセプトの設定

■春吉橋と周辺の現況特性

国体道路

(みち・まちのつながり)

国体道路は、福博を「つなぐ」軸であり、周辺地域が「つながる」場所

春吉橋

(みち・かわのクロスポイント)

「那珂川」の河川軸と「国体道路」の道路軸がクロスする場所として福博連携のシンボルと呼ぶに相応しい空間づくりが求められる場所

那珂川

(かわ・まちのつながり)

都市的河川景観のなかでゆっくりと風景を眺望できる場所

■春吉橋の目指すべき景観の方向性

福博の回遊拠点として、賑わい空間でのイベントや景観演出とも調和し、周辺環境の中で全体としてまとまりのある橋梁景観を目指す

■春吉橋景観デザインコンセプト

ひと・まちを結び、賑わいを創出する「新たな春吉橋」

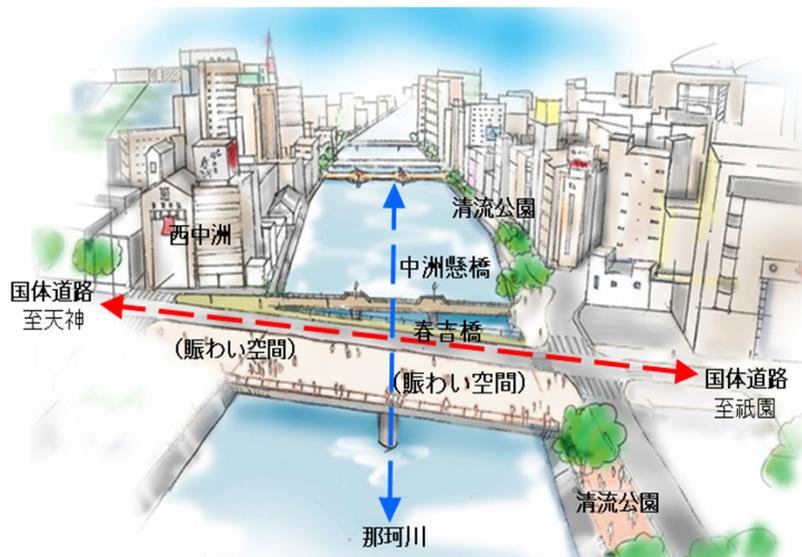
- 魅力ある街と街をつなぐ回遊拠点として、周辺と調和した落ち着きと品格のある空間を演出するとともに、周辺地域の魅力をつなげるデザインを目指します。
- 賑わい空間は、水辺の解放感や賑わいの楽しさを演出することに加え、「憩い・くつろぎ」と「アクティビティ」の二つの顔を成り立たせる空間デザインを目指します。
- 多様な人々が賑わう空間の創出として個性の演出とともに全体のバランスのとれた統一感のある景観形成を目指します。

5. 景観検討の留意点の整理

- 「周辺環境の中で全体としてまとまりのある橋梁空間」とするため、景観検討における留意点を整理し、個別の景観構成要素の方針を設定する。

春吉橋に求められる景観デザイン (全体的留意点)

- 国体道路、隣り合う清流公園や水辺空間、市道など **周辺空間とのつながりや調和が感じられること。**
- 賑わいのシーンの演出や人々が憩いくつろぐことのできるような、**様々な利用特性に応じた空間演出と全体的なまとまりの両立。**



春吉橋の周辺の空間構成

まとまりのある雰囲気づくりのための景観統合の留意点

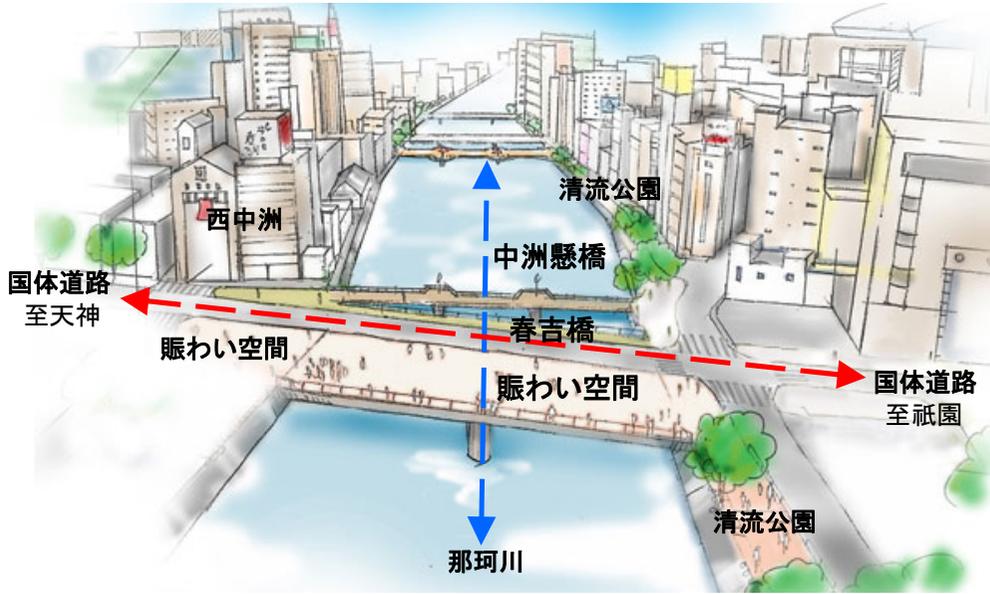
外部景観	中・遠景 (清流公園・灘の川橋 周辺建物からのビスタ)	(統合要素: 桁・地覆・柵外面・照明) ● 建造物の 圧迫感を抑えるため陰影や形状による視覚効果 が得られるような 各景観要素の一体的な組み合わせ に留意。 ● 夜景における照明を活用した 街並みとの調和と個性の演出 に留意。
	近景 (清流公園・水上バス からの仰観)	(統合要素: 橋脚、桁背面・側面、柵外面、照明) 統合要素が視野を覆うように景観を形成することから特に 景観要素間の調和や陰影による全体的な表情づくり に留意。
内部景観	滞留シーン	統合要素(歩道舗装パターン・柵内面) ● 座って休むなど視点が下がり防護柵の存在感や歩道デザインの印象が強くなるため、 圧迫感軽減、落ち着き、領域感 に留意。
	移動シーン	(統合要素: 舗装パターン・防護柵ハンドレール・柵内面) ● 橋の移動軸線方向の 連続性とリズム感の演出 に留意。 ● 街と街をつなぐシーンの 転換点としての空間演出 に留意。

個別景観構成要素の留意点

景観構成要素	歩道舗装	国体道路 (本橋)	● 国体道路の歩道の連続性と本橋歩道と賑わい空間との調和に留意。 ● 本橋下流側の歩道が中洲懸橋を眺めるビューポイント となる点に留意。 ● 通行と滞留の動線コントロールに留意。
	親柱		● 春吉橋の顔となる要素 であることから 個としての主張と内部景観としてのまとまりのバランス に留意。 ● 周辺空間とのつながりの中で アイストップ となる要素であることから、視認性に留意。
	橋梁附属物等 (高欄、防護柵、照明灯等)		● 清流公園や周辺の建物など外からの見え方にも留意。 ● 夜景における周囲の景観も活かした演出(水辺への映り込みによる演出や、橋の存在をしっかりと感じさせる色彩や光の演出) ● 春吉橋と中洲懸橋の橋上空間との関係性(調和・対比) に留意。
	賑わい空間		● 人が集まり、滞在し、活動する空間であることに留意。 ● 清流公園との調和に留意。 ● 水辺の良好な眺めを生かすビューポイントとして滞留空間の演出に留意。

6. 景観構成要素の検討方針

個別方針を踏まえ、一体的に橋梁のデザインの検討を進めていく



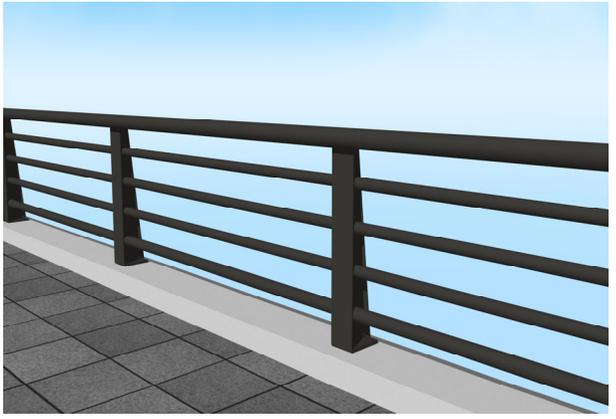
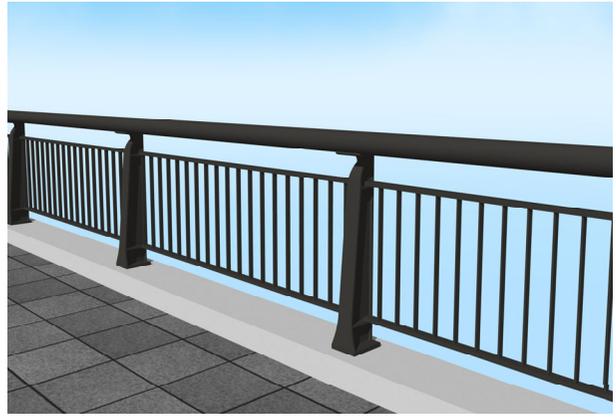
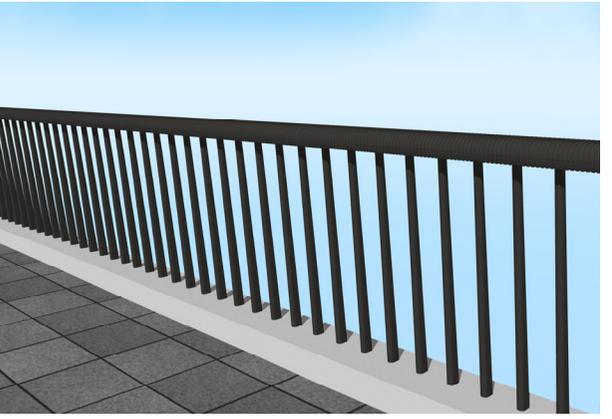
■ 春吉橋 デザイン検討構成要素



景観構成要素	個別の検討方針(案)
歩道舗装	<p>【国体道路(本橋)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 回避拠点として、周辺とつながる国体道路(本橋)の歩道舗装は、周辺街路の落ち着きのある舗装との調和や、道路軸として連続性とまとまりのある歩道空間とする。
親柱	<ul style="list-style-type: none"> ● 清流公園、中洲懸橋、賑わい空間のつながりに留意し、本橋、賑わい空間での統一感を図りながらも、配置場所に応じた形状・向きを検討する。
防護柵	<p>【高欄 (歩道用)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 春吉橋では、街の風景や水辺の風景がよく眺望できることから、人が滞留する場所となり、高欄に人が触れる機会が多いため、高欄は、安全面(転落防止)での配慮と共に手や肘になじみやすい形状とし、基本的にシンプルで透過性が高く、橋上から那珂川の水辺空間、外部から橋上空間がよく見えるようにする。 ● 橋上を構成する他の橋梁附属物とも調和を図る。 <p>【横断防止柵・転落防止柵】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 橋上空間の圧迫感を低減するため、シンプルな形状とする。 ● 市道部や清流公園側の防護柵も周辺のつながりとして、調和が図られるように検討する。 ● 横断防止柵は橋上で、すっきりと見える工夫や他の構造物と質感を整える配慮を行う。
照明灯	<p>【道路照明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 道路照明は車道部の照度を確保する。 ● 橋梁内・外の配置バランスと眺望を阻害しないすっきりとした形状とする。 ● 夜の景観として、周辺環境と調和した色温度とする。 <p>【景観照明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 歩行者の誘導や賑わい空間の雰囲気づくりとして水辺空間を活かす照明配置を検討する。 ● ライトアップなどで夜の景観として周辺環境の中で橋梁全体の見え方が沈み込まない工夫を行う。
地覆	<ul style="list-style-type: none"> ● 構造物の圧迫感を抑えるため陰影や形状を工夫し、橋梁側面がスレンダーに見える効果が得られるように形状に変化を持たせる。 ● 地覆の形状と橋梁構造物のまとまりや取り合いに配慮する。
賑わい空間	<ul style="list-style-type: none"> ● 国体道路(本橋)舗装と連続性を持たせつつ、舗装面積が大きいことから、橋面のスケールにあった色合いや舗装パターンなどで単調にならない工夫を行う。 ● イベント利用や憩い・くつろぐ場など様々な利用形態が想定される中、その背景となるように色合いや舗装パターンを検討しつつ、全体としての調和も図る。

7.検討の方向性（高欄）

景観構成要素	個別の方針(案)
防護柵	<p>【高欄（歩道用）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 春吉橋では、街の風景や水辺の風景がよく眺望できることから、人が滞留する場所となり、高欄に人が触れる機会が多いため、高欄は、安全面（転落防止）での配慮と共に手や肘になじみやすい形状とし、基本的にシンプルで透過性が高く、橋上から那珂川の水辺空間、外部から橋上空間がよく見えるようにする。 ● 橋上を構成する他の橋梁附属物とも調和を図る。

	検討案① 横棧タイプ	検討案② 縦棧タイプ	検討案③ 多柵タイプ
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ● 横方向の軸線が強調される。 ● 支柱でアクセントをつけることができるが、連続性と支柱の間隔に留意が必要。 ● レールへの乗降が懸念されるため配慮が必要。 ● 比較的施工が容易 一般的に使われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 横棧タイプに対し、縦格子部材が加わる形態。 ● 支柱でアクセントをつけることができるが、連続性と支柱の間隔に留意が必要。 ● 足がかりは少ないが、すり抜けに配慮が必要。 ● 比較的施工が容易 一般的に使われている。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 支柱がない形式で全体の統一性が得られ、連続感が感じられる形態。 ● 足がかりはない。 ● 比較的施工性は劣るが、シンプルな形状のため他の構造物と調和を図りやすい。
形状			

検討の方向性	<p>【素材について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 福岡市内の那珂川に架かる橋の高欄には、鋳鉄製の高欄が多く見られ、風格と落ち着きのある雰囲気もつ形態が多い。 ● 鋳鉄製高欄は、形状のオリジナリティだけでなく、質感、手触り、風合い等、品格ある橋の存在感を示すことができる。 ● 春吉橋においても、魅力ある街と街をつなぐ回遊拠点として、周辺と調和した落ち着きと品格のある空間を目指し、鋳鉄製での検討を行う。 ● 周辺地域の魅力をつなげるデザインとして福岡の象徴となる那珂川の橋に相応しいデザインを検討していく。 <p>【形状について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 橋梁上での統一性や連続性が感じられる形態とするため多柵型での検討を行っていく。 ● 人が滞留する場所の特性から、高欄を構成するトップレールは手になじみやすい形状とする。 ● 地覆への高欄取付部は、橋上での柵の連続性が確保でき調和のとれる形態を検討していく。 	<p>高欄色</p>  <p>ダークグレー 10YR3.0/0.2</p> <p>※景観に配慮した防護柵の整備ガイドライン</p>
--------	--	---

7.検討の方向性 (高欄・親柱周辺の状況)



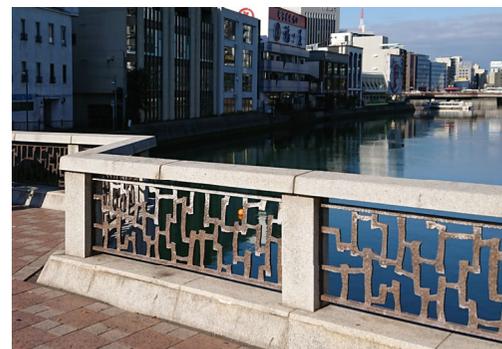
▲須崎橋 (鑄鉄製の高欄支柱)



▲西中島橋 (鑄鉄製のバスター)



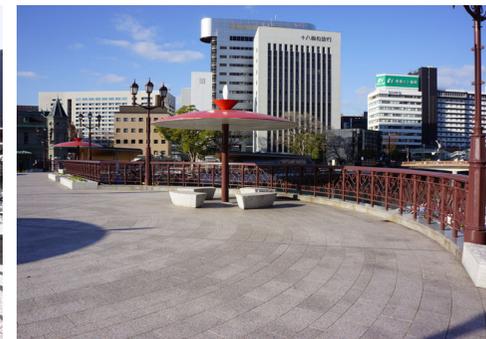
▲西大橋 (鑄鉄製のパネル)



▲中洲懸橋 (鑄鉄製のパネル)

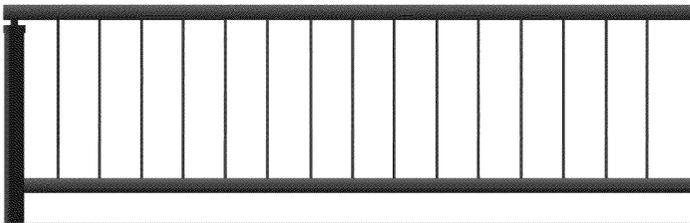
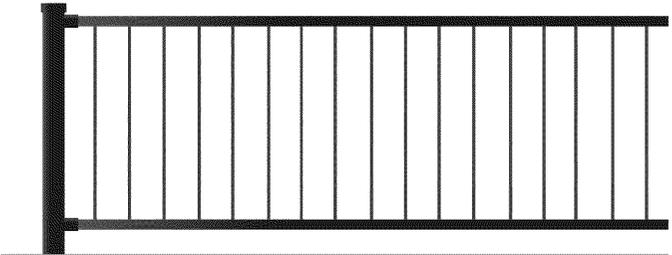
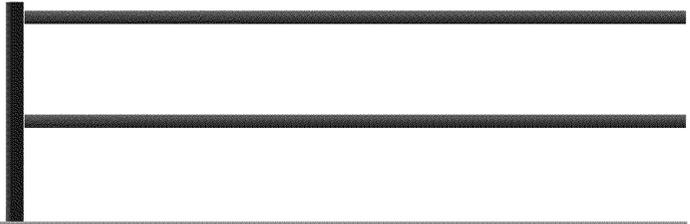
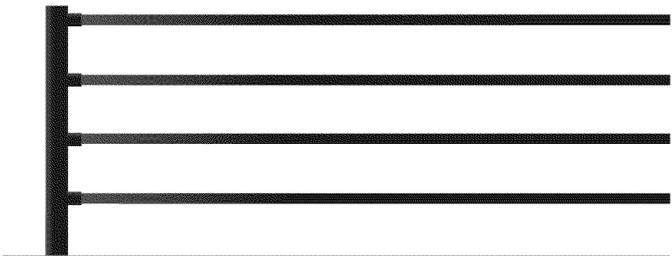
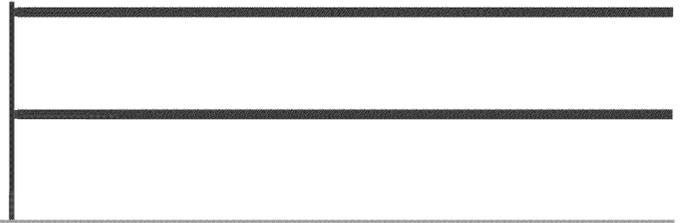
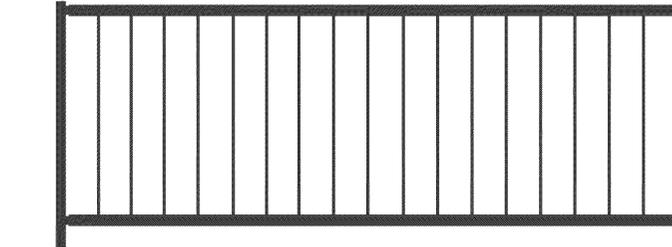


▲福博であい橋 (鑄鉄製高欄)



7.検討の方向性（横断防止柵・転落防止柵）

景観構成要素	個別の方針(案)
防護柵	<p>【横断防止柵・転落防止柵】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 橋上空間の圧迫感を低減するため、シンプルな形状とする。 ● 市道部や清流公園側の防護柵も周辺のつながりとして、調和が図られるように検討する。 ● 横断防止柵は橋上で、すっきりと見える工夫や他の構造物と質感を整える配慮を行う。

	横断防止柵 (H=700~800mm)	転落防止柵 (H=1,100mm) <small>※アンカー基礎タイプ(橋上以外)</small>
縦柵タイプ		
横柵タイプ		
検討の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ● 国体道路、はかた駅前通りとのつながりに配慮し、横柵タイプの形状とする。 ● 橋上空間では圧迫感の低減を支柱の形状を細くすることにより向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 清流公園の防護柵や橋上高欄との調和を図り、つながりを確保する。 ● 清流公園は、プレート型の薄い素材の組み合わせで配置されているため橋梁と連続する部分は、縦柵型のシンプルな形状として色も併せて検討する。
		

■横断防止柵

横棧タイプのシンプルな丸型形状となっており、はかた駅前通りと国体道路(天神側)は、形状も統一されている。



▲はかた駅前通り



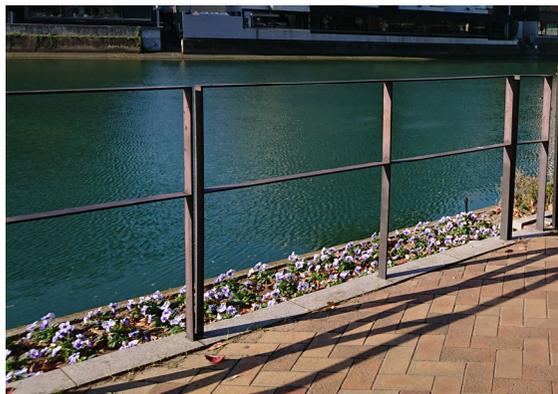
▲国体道路天神側



▲国体道路中洲側__中洲新橋

■転落防止柵

清流公園の春吉橋下流は、色が統一され、プレートタイプの縦棧型となっている。上流側は、より透過性の高いプレート型。



▲清流公園上流側__キャナル前付近

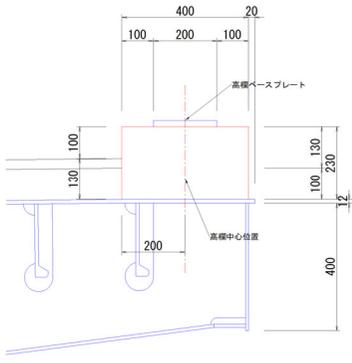
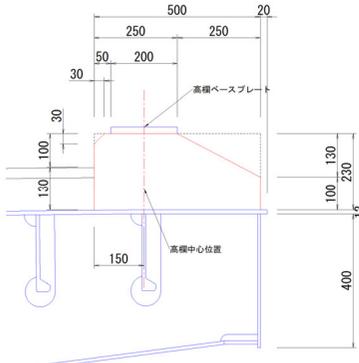
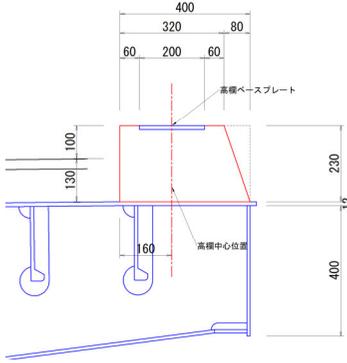
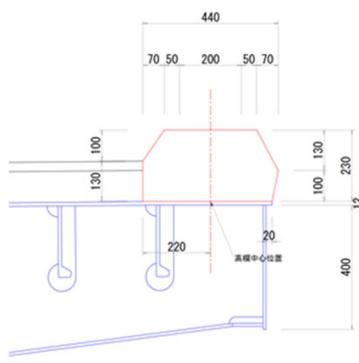
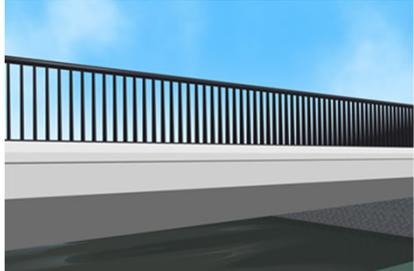


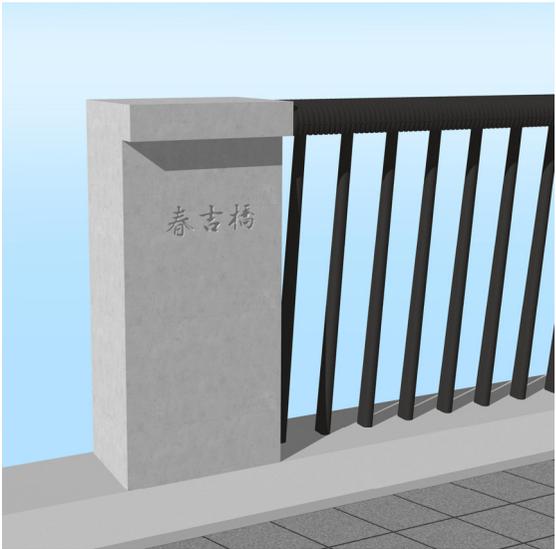
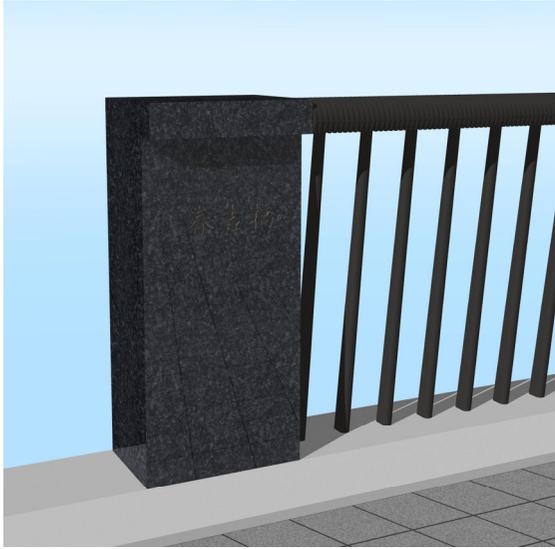
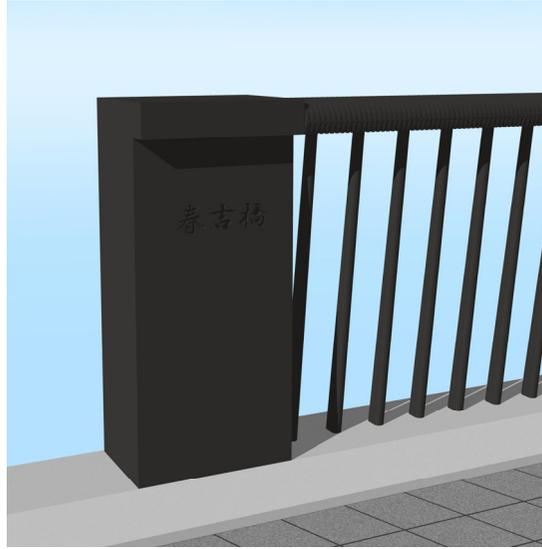
▲清流公園下流側__ 福博であい橋付近



▲清流公園下流側__弁天橋付近

7.検討の方向性 (地覆)

景観構成要素	個別の方針(案)			
地覆	<ul style="list-style-type: none"> ● 構造物の圧迫感を抑えるため陰影や形状を工夫し、橋梁側面がスレンダーに見える効果が得られるように形状に変化を持たせる。 ● 地覆の形状と橋梁構造物のまとまりや取り合いに配慮する。 			
	<p>現案では、桁鋼板と同じ面に垂直に計画されていた地覆側面に対して、地覆を傾斜させることでより効果的に桁側面を薄く見せる形状を検討</p>			
	現案	検討案①	検討案②	検討案③
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ● 12mmの飛び出し部で地覆と桁鋼板高と陰影が分かれる形態である。 ● 桁側面全体に陰影がなく、単一な印象となりスマートさに欠ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地覆の上幅500mmとし、傾斜させた案。 ● 傾斜幅が大きいので、側面が細く見えるが、傾斜部が広く汚れが目立つことが懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地覆側面の230mmを傾斜させた案。 ● 汚れが歩道側から見えにくいですが、12mmの段差と傾斜角度では、遠景から桁鋼板と地覆が同じラインに見えるためスマートに見せるための効果が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 地覆幅を幅440mmとし、地覆側面を2面化させた案。 ● 2面化し、さらに桁鋼板から飛び出しているため、下部面への影が大きくなる。(フェイスラインの効果が大きい)また、地覆下部の桁鋼板側面にも若干ではあるが影が落ちる効果が期待できる。
形状				
地覆イメージ				
検討の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ● 地覆の形状に合わせ、高欄や親柱の形状も一体的にデザインを検討し、まとまりのある空間を目指す。 ● 地覆と共に、橋梁側面として、側面配管類なども確認し、見せない工夫や移動を検討する。 ● 橋梁側面のつながりとして、橋脚の上部の連続性の確保のため端部処理の検討を行っていく。 			

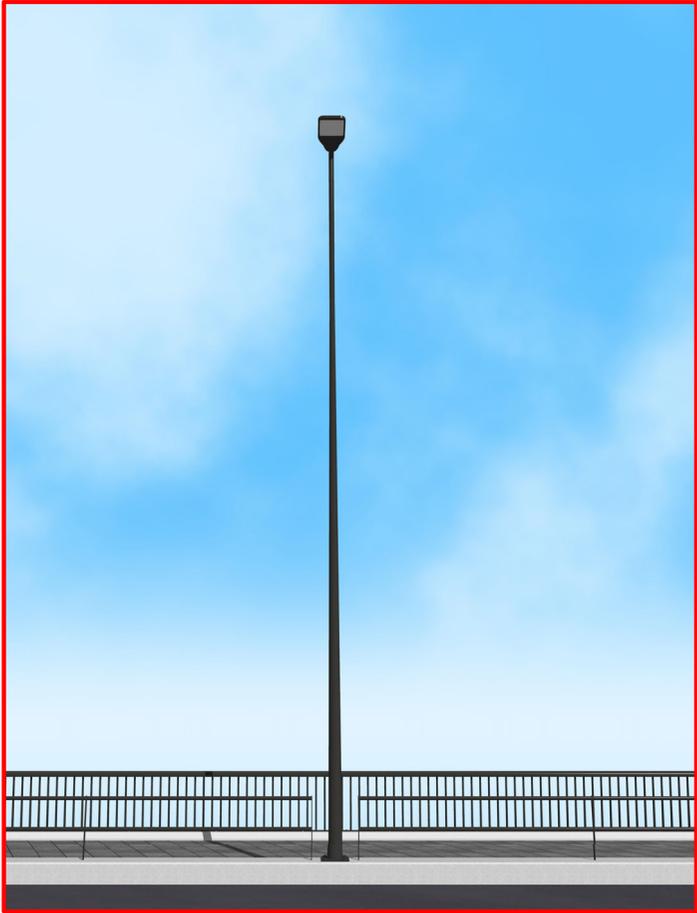
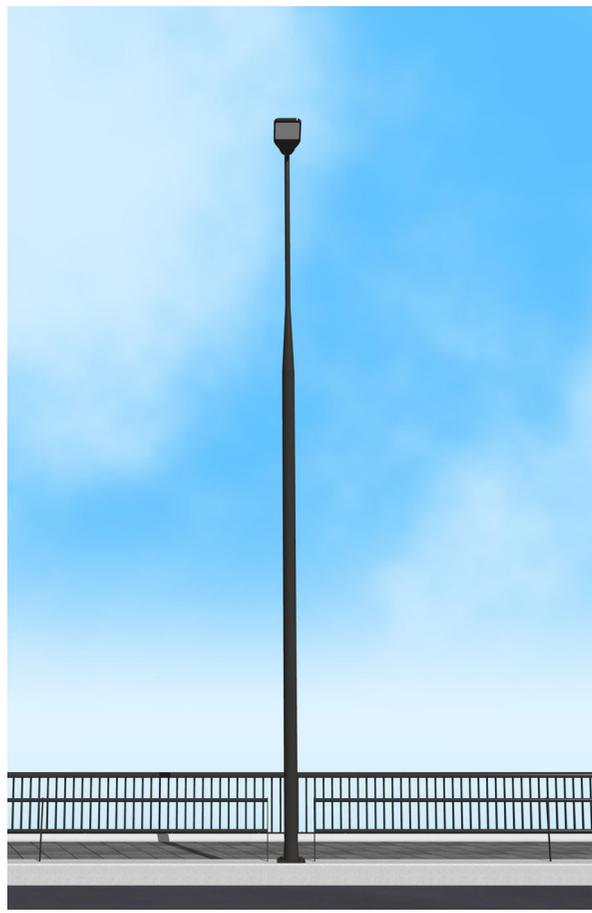
景観構成要素	個別の方針(案)		
親柱	<ul style="list-style-type: none"> ● 清流公園、中洲懸橋、賑わい空間のつながりに留意し、本橋、賑わい空間での統一感を図りながらも、配置場所に応じた形状・向きを検討する。 		
	<p>検討案① コンクリートタイプ</p>	<p>検討案② 自然石タイプ</p>	<p>検討案③ 鋳鉄タイプ</p>
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ● 多彩な表面仕上げ・造形が可能。 ● 伸縮などによるひび割れに注意を要する。 ● 経年の汚れや劣化対策が必要。 ● 地覆と一体化し、現場打とする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 石材の種類によっては多彩な表面仕上げが可能。 ● 高級感はあるが、衝撃に弱く、加工性にやや劣る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 多彩な表面仕上げ・加工が可能。 ● 造形性を活かした繊細で複雑なデザインや、素材の重厚感を生かすケースに適している。 ● 塗装等で防食し、耐久性と素材の表情を演出することが可能。
形状			
検討の方向性	<p>【素材について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高欄の素材と同一として鋳鉄タイプで検討を行う。 <p>【形状について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 親柱は、地覆に設置をすることから、高欄トップレールやバラストー、周辺の横断防止柵や構造物とのつながりに留意し検討を行う。 ● 鋳鉄製にすることにより、高欄内部の有効利用が可能なことから、賑わい空間の電源設備などの格納場所として検討を行っていく。 ● 親柱は、シンプルな形状としながらも、橋梁のアクセントとして、また顔としてのデザインの検討を行っていく。 		

7.検討の方向性（道路照明）

景観構成要素	個別の方針(案)
照明灯	<p>【道路照明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 道路照明は車道部の照度を確保する。 ● 橋梁内・外の配置バランスと眺望を阻害しないすっきりとした形状とする。 ● 夜の景観として、周辺環境と調和した色温度とする。

検討の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ● 照明ポールと灯具はシンプルな形状として、橋上の構造物と形状・色調・質感の統一を図り、夜の景観として明るすぎない温かみのある色温度として2700Kを目指し配置を検討していく。 ● 橋梁上で人が滞留することから、照明のベースプレートやボルト類、配線用のポールの飛び出しなどにも配慮した形態とする。 		
--------	---	--	--

	<p>検討案① テーパーポール</p>	<p>検討案② ストレート+テーパー</p>	<p>道路照明灯具等</p>
--	-------------------------	----------------------------	----------------

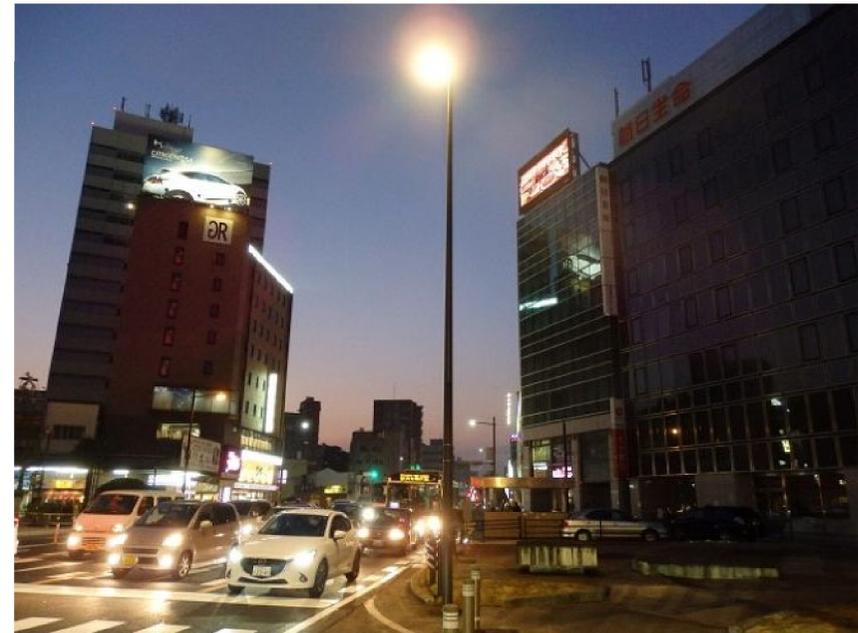
形状			<p>灯具参考イメージ ※ダークグレー色とする。</p>  <p>ベースプレートや照明柱開口部は、出っ張り等のないすっきりとした形状とする。</p> 
----	--	---	--

7.検討の方向性（道路照明 色温度のイメージ）

■照明灯具 色温度2700Kの参考イメージ



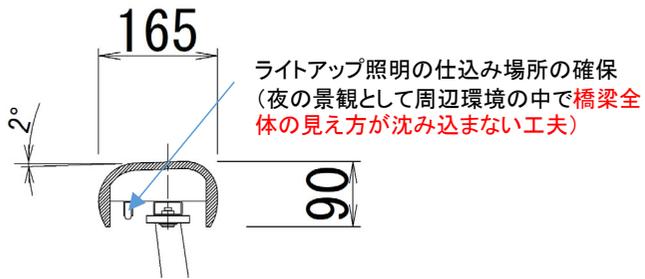
▲大分駅前



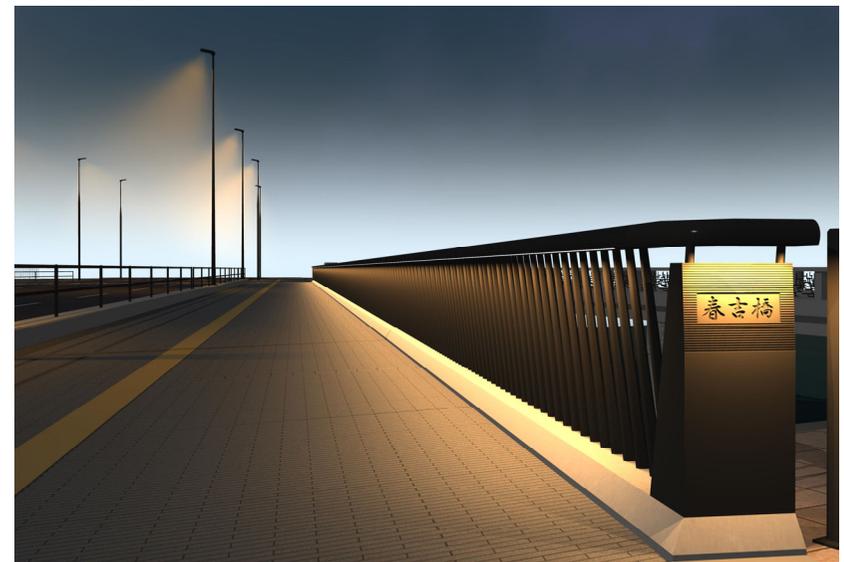
7.検討の方向性（景観照明）

景観構成要素	個別の方針(案)
照明灯	<p>【景観照明】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 歩行者の誘導や賑わい空間の雰囲気づくりとして水辺空間を活かす照明配置を検討する。 ● ライトアップ等で夜の景観として周辺環境の中で橋梁全体の見え方が沈み込まない工夫を行う。

検討案	参考イメージ
<ul style="list-style-type: none"> ● 中洲の夜景は「光の点」と中洲の特性として「看板照明」等で構成されており、「連続した光の帯」が周辺にない。 ● 景観照明は、水上バスや清流公園、周辺のビル群など外部から見たとき、橋の上の賑わいの様子が、照明で確認でき、高欄自体もきれいに見え、橋上の賑わいを浮かび上がらせるというコンセプトで検討を行っていく。 	 <p>▲春吉橋 現況</p>



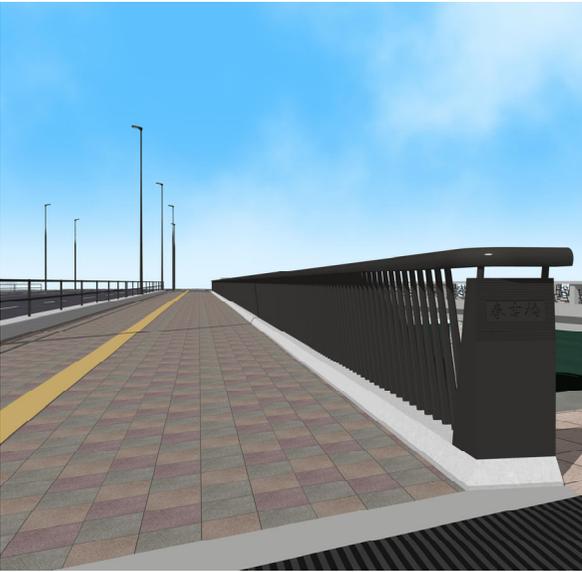
▲春吉橋 景観照明イメージ（清流公園下流 中洲懸橋付近の視点）



▲春吉橋 景観照明イメージ（本橋中洲側からの視点）

7.検討の方向性（舗装色）

景観構成要素	個別の方針(案)
歩道舗装	<p>【国体道路(本橋)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 回遊拠点として、周辺とつながる国体道路(本橋)の歩道舗装は、周辺街路の落ち着いたある舗装との調和や、道路軸として連続性とまとまりのある歩道空間とする。

材料	検討案① 無彩色 (アスファルト系舗装)	検討案② 有彩色 (ブロック系舗装)	検討案③ 無彩色 (ブロック系舗装)
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ● 周辺の接続する街路は石材舗装やインターロッキング舗装で構成されているため連続性とまとまりに欠ける。 ● 色味は脱色により変更可能であるが単調となる。 ● 点字ブロック舗装とのコントラストの差が大きく見やすい。 ● 橋梁の伸縮装置の目立ちは低減する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 様々なパターンが可能であるが橋上構造物とのまとまりや調和に欠ける。 ● 点字ブロック舗装とのコントラストの差が大きく見やすい。 ● 橋梁の伸縮装置の目立ちは大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 様々なパターンが可能である。 ● 周辺景観は色が多いため、舗装を有彩色とすると全体的に落ち着きがなくなる。無彩色のブロック舗装とすることで橋上構造物とも同系色で調和し、風格のある趣となる。 ● 点字ブロック舗装とのコントラストの差が大きく見やすい。 ● 橋梁の伸縮装置の目立ちは低減する。
検討案			
検討の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ● 橋梁構造物との調和を図り、グレー系の落ち着いた舗装とし、橋梁全体として国体道路、清流公園との調和を目指した舗装を検討していく。 ● 歩道部は連続性を持ちながらも、空間として広く見える検討を行う。 ● 舗装部は点字ブロックが設置されるが、周辺の通りからの接続も考慮し、薄い黄色での配置を検討する。 		

春吉橋は、回遊拠点として、周辺の落ち着いたある舗装と調和させることにより、まとまりのある空間を目指す。



▲はかた駅前通り(福岡市)



▲清流公園(福岡市)

【周辺の通りの舗装のイメージ】



▲御供所通り（福岡市 博多区 御供所町）



▲中洲中央通り（福岡市 博多区 中洲）
（整備後のイメージ）



▲西中洲地区（福岡市 中央区 西中洲）



▲渡辺通り（福岡市 中央区 天神）